お互いの気持ちを認め合うことの大切さ

大江小学校　五年　上妻（こうづま）　蘭（らん）

私たちのクラスでは、四年生の一年間、長縄とびで、何回連続でとべるかに挑戦しました。一学期は、みんな協力しようともしませんでしたが、三学期の最後には、三十八回も続けてとべるようになりました。その時は、本当にうれしくて、クラスのみんなで大喜びしました。私は、なぜ三十八回もとべるようになったのか、考えてみました。

一学期、協力できずにとべなくて、友達同士で冷たい言葉を言い合うことが何度もありました。正直に言うと、私も言ってしまったことがあります。けんかになったり、泣いてしまう人もいたりして、すごく後悔しました。

そこで、みんなで、失敗した時の気持ちや最高記録を出したいという気持ちを話し合うと、相手を責めるだけではうまくいかないことに気づきました。それからは、「大丈夫。」や「みんなで、『はいっ』て言うから、タイミングに合わせるといいよ。」といった、友達をはげましたり、アドバイスをしたりする声をクラスみんなでかけ合うようになりました。私も、友達にたくさん声かけができました。だから、三学期の最後に、三十八回連続という記録を出せたと思います。失敗する友達の気持ちも、上手にとべる人の気持ちも認め合って、思いやりのある声かけが大切だということが分かりました。

五年生になり、高学年になりました。学級目標は、「団結パワー～明るく・きまりを守る・助け合う～」です。歓迎集会や歓迎遠足・委員会活動など、下級生や学校のために活動することがたくさんありました。その時には、同じ学年の友達だけでなく、下級生の気持ちも考えてやさしく声かけができました。これからも、これらの体験をいかして、同じ学年の友達と認め合うことを大事にしながら、下級生や学校のことも考えて行動し、学級目標を達成したいです。

【先生のコメント】

「お互いの気持ちを認め合うこと」は、これから、生きていく上でもとても大切なことですね。私たちは、周りの人と支え合っていかなければ生きてはいけません。「一人で生きていける。」と思っていても、どこかで誰かに必ず支えられています。だからこそ、互いの気持ちを認め合い、声を掛け合うことは大切なのだと思います。蘭さんは、相手の気持ちを考えて、困っている友達に声をかけることができていますね。誰にでもできることではありません。その優しい気持ちを学級、学校全体に広げていきましょう。きっと今よりもみんなが楽しく輝ける学級、学校になるはずです。

みやま市男女共同参画出前講座

地域や職場、グループの集まりに市から講師を派遣します。講師の謝金は市が負担します（上限あり）。研修会や講演会など、気軽に利用ください。

【講座テーマの例】
▼男女共同参画ってなあに？
▼家族の助け合いで子育て・介護
▼みんなで考えよう男女共同参画のまちづくり
▼ワークライフバランス　▼LGBTQ　ほか

■開催時間・場所　原則平日の午前9時～午後9時の間で、1～2時間程度。会場の手配などは主催者側でお願いします。
■申し込み方法　開催日の3か月前までに人権・同和対策室で配布している申込書を提出ください。
問 人権・同和対策室（TEL64・1544）

人権相談（無料）
～ひとりで悩んでいませんか～

【女性相談所】
■日時　6月8日㈭午前10時～午後3時
■場所　福岡法務局柳川支局
■相談内容　原則として女性からの相談
※女性の人権擁護委員が相談に応じます。

【常設相談】
■時間　午前8時30分～午後5時15分（土、日、祝日を除く）
■場所　福岡法務局柳川支局
■相談担当者　法務局職員または人権擁護委員
■相談電話番号（TEL0570・003・110）
問 福岡法務局柳川支局（TEL72・2640）

正覚寺 副住職

島添　顕信さん

「僧侶ということを職業として捉えずに、生き方だと捉えるようにしています」

上庄地区にある正覚寺の副住職を務めている島添顕信さん。僧侶としての資格を取得するために実家を離れ、就職したが、6年前にUターンして実家に帰ってきた。地域の「お坊さん」としてのお勤めを行うほか、消防団員としても活動している。

僧侶としての役割とやりがい

島添さんは、月命日のお参りなどを通して、社会とのつながりが少なくなってきている一人暮らしの高齢者が多くなっていることを実感するという。

「ただお経を読むだけではなく、お経を読んだ後は雑談などの会話を重ねるようにしています」

僧侶は、地域の輪を途切れさせず、見守るような存在でもあると話す島添さん。お寺に来ることで、交流のきっかけが生まれることもある。

「お寺にお参りに来たら、昔の友人と偶然出会えたとか、一緒にお寺のお話を聞きに行く『寺友』ができた、来てよかったなどと言っていただくと、とても嬉しく思います」

お寺を楽しい交流の場に

寺では例年8月、小学生を対象に、本堂・境内を開放して、勉強や工作、ゲームなどをしたり、特製カレーを食べて自由に楽しんでもらったりする「子供寺子屋」を開催している。

コロナ禍で3年中止していたが、今年は開催を計画中だ。

「お寺が子どもたちの遊び場になって、ここでの思い出が記憶に残ってくれたらと思います。よくお寺は『入りづらい』、『入ってはいけない気がする』などとイメージされますが、楽しい地域のコミュニティの場でありたいと思っています。いろいろな世代の人たちが安心して集える場所にしたいです」

しまぞえ　けんしん
市消防団上庄分団所属。趣味は映画鑑賞。

【座右の銘】
現状維持は衰退の始まり

【みやま市にひとこと】
近所を歩いていると、小学生や中学生が必ずあいさつをしてくれます。人がみんな温かいです。

みやま文芸

高田町句会

麦秋を鳥の見下ろす地平線　板橋　寿
月光の囁（ささや）く宵の月見草　岩屋　清美
降りつづく雨の狼藉（ろうぜき）牡丹崩（く）ゆ　鹿子生　憲二
竹落葉しきりに舞へる石神山　紙田　幻草
木漏（こも）れ日（び）のもれ来る窓べ若葉風　猿渡　洋子
感嘆の声広ごれる藤見かな　杉野　博子
身の丈（たけ）に悠悠生きる鯉幟　西山　ワカ子
麦の穂も色づきている風に揺れ　野田　憲二
ワクチンを重ね余生の豆の飯　野田　岳比古
結界（けっかい）へ伸びゆく生命（いのち）神の藤　松尾　光惠

※俳句・短歌は市内の団体から提供いただいたものを順次掲載しています。